



議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R5年9月号

『ニホンという病』

養老孟司/名越康文【著】/講談社(2023/5)



解剖学者の養老孟司と精神科医の名越康文という心配性のドクター二人が、異次元の角度から日本社会が患う「ニホンという病」を診察、好き勝手にアドバイスを処方する。

『先読み！IT×ビジネス講座画像生成AI』

深津貴之/水野祐他【著】/インプレス(2023/3)



「画像生成AI」について、エンジニアでなくても基本的な知識を習得できるよう、対話形式でわかりやすく解説。仕組みから使い方、活用方法の例、法律的な解釈、社会課題まで、幅広く取り上げる。

『脳の闇』

中野信子【著】/新潮社(2023/2)



集団の中で、人は常に「承認欲求」と無縁ではられない。曖昧で不安な状態を嫌う脳の仕組みは、深淵にして実に厄介。現代社会の病理と私たち人間の脳に備わる深い闇を鮮やかに解き明かす、衝撃の人間論！

『スカートと女性の歴史～ファッションと女らしさの20世紀の物語』

キンバリー・クリスマス=キャンベル【著】/原書房(2023/4)



20世紀に流行したスカートのスタイルを取り上げ、流行の背景と女性の社会進出、女らしさの定義の変遷を明らかにする。ファッションが映し出す時代の価値観、ジェンダー、アイデンティティとは。

『日本の死角』

現代ビジネス【編】/講談社(2023/5)



「日本人は集団主義」のウソ、「ハーバード式教育」の罠、地方で拡大する「移動格差」。日本人論や若者の生態、失われた30年、教育、地方、暮らし、差別といった問題の構造や核心を論じる。

『教室を生きのびる政治学』

岡田憲治【著】/晶文社(2023/4)



心をざわつかせる不平等、友だち関係のうっとうしさ、孤立したくない不安…。教室で起きるゴタゴタには、政治学の知恵が役に立つ！学校エピソードから人のうごめきを読みとき、社会生活をくぐりぬけていく方法を紹介する。

『差別のない社会をつくるインクルーシブ教育～誰のことばにも同じだけ価値がある』

野口昇菜/喜多一馬【編著】/学事出版(2022/10)



障害、貧困、包括的性教育、いじめ等をテーマに、差別のないインクルーシブな教室・社会をどうつくっていくか考え、行動するきっかけとなる本。

『人生・キャリアのモヤモヤから自由になれる～大人の「非認知能力」を鍛える25の質問』

ボーク重子【著】/ディスカバージャパン(2023/2)



「今のままの自分で大丈夫なのか…」不安な時代を、自己肯定感・自分軸・成功体質・主体性・オープンマインド・共感性などからなる「非認知能力」を武器に生き抜くことを提言する、新しいキャリア構築書。

『超速でわかる！宇宙ビジネス』

片山俊大【著】/総合出版すばる舎(2021/11)

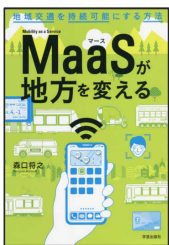


「ブランソン、ベズス、前澤氏…そんなに簡単に宇宙に行けるの?」「なぜ、ビリオネアたちは宇宙に投資してるの?」「普通の人の暮らしや仕事に関係あるの?」ビジネス事例、今後の方向性などわかりやすく説明。最低限知っておきたい話を厳選。宇宙ビジネス速習読本!

▶トピックス「交通・次世代産業」に関する書籍

『MaaSが地方を変える ～地域交通を持続可能にする方法』

森口将之【著】/学芸出版社
(2021/9)



ICTの力で多様な公共交通による移動を最適化するMaaSを活かすことで、脱マイカー依存やコンパクトシティを実現し、持続可能な地域を目指す各地の取り組みをレポート。

『グリーンスローモビリティ ～小さな低速電動車が公共交通と 地域を変える』

三重野真代 他【著】/学芸出版社
(2021/5)



グリーンスローモビリティは、公道を走ることができる低速の電動車。地域の交通課題の解決や、低炭素型モビリティの普及に役立つとされている。各地の導入事例を紹介する。

『宇宙ベンチャーの時代 ～経営の視点で読む宇宙開発』

小松伸多佳・後藤大亮【著】/光文社
(2023/3)



宇宙開発は民間企業による「ビジネス」として生まれ変わりつつある。ベンチャー・キャピタリストとJAXAのエンジニアが、企業経営・サイエンスの観点から展望する。

『図解入門よくわかる 最新 都市交通の基本と仕組み ～これからの新しい鉄道や公共交通』

秋山芳弘【監修】/秀和システム
(2023/3)



都市交通システムの概要とその国内外の導入事例を豊富な写真や図版でわかりやすく解説。世界的トレンドや「TOD」「MaaS」などの新しい技術も具体的に紹介。



図書広報委員がおすすめる一冊

『日本が売られる』



著者：堤 未果 / 幻冬舎 (2018年)

痛烈な印象のタイトルから、内容が気になり読んでみた一冊です。水資源から始まり、農林漁業、食の安全と日本人の当たり前が実はそうではなかったのではないかと提起されています。

働き方や教育、医療、老後の介護等様々な国の一例を切り取って日本にとって必要か否か、著者の見解が読み取れます。また、そのような事例と戦ってきた例も掲載されています。多様な考え方や意見を勉強するのに合った一冊です。



紹介者：水野 喜徳 委員

自由民主党・吾妻郡選出・1期

次号では、今井 俊哉 委員におすすめさせていただきます！



議会事務局政策広報課（議会図書室）